

# 次世代の産業集積を構築する大邱慶北経済自由区域

テグ キョンボク

## ～国内外のグローバル企業が注目～

韓国は2008年秋のリーマンショック以降、先進国が経済低迷を余儀なくされる中、輸出競争力の向上や新興国市場の開拓などに注力し、輸出額が2008年の世界12位から2010年には同7位に躍進。とりわけ、自動車産業（部品含む）の飛躍が目覚ましく、同産業の生産台数は世界第5位に成長している。

こうした経済成長を背景に、韓国の通商政策の高度化や低い法人税、エネルギー

コストなどから、日本企業の韓国投資への関心が年々高まり、これに呼応するかのように、韓国内の自治体も日本企業の誘致に積極的だ。大邱・慶尚北道も日本の中堅・中小企業の誘致に力を入れている。関心が高まる韓国投資ニーズを背景に、日刊工業新聞社の井水社長が大邱慶北経済自由区域庁の崔柄録区域庁長に、同経済自由区域への投資メリットや進出支援策などを聞いた。



### “産学官”の有機的なネットワーク化

**井水** はじめに、大邱慶北の経済自由区域の概要や主要産業などについて、お話し下さい。

**崔** 大邱と慶尚北道は韓国の東南部（東経127.48～131.52度、北緯35.34～37.33度）に位置し、人口は約530万人、総面積約1万9,909平方キロメートルです。主な産業は、電子・モバイル産業をはじめ、機械金属、自動車部品、繊維など多様で、域内の総生産額は8兆4,000億ウォンです。

大邱慶北の地場産業を元にご地域内の10地区を経済特区に指定（大邱市に5地区、慶北道に5地区）、延べ面積32,366平方キロメートル（9,788千坪）、事業費8兆1,644億ウォン、2008～2020年完工を目標に産業団地造成事業を推進中です。

**井水** なぜ、こうした大規模な経済自由区域を計画したのですか。

**崔** 経済自由区域というのは、「経済自由区域の指定及び運営に関する法律」による特別な経済区域のことです。

目的は外国人投資企業の経営環境と外国人の定住と件を改善することで、外国人の投資促進を図るものです。

具体的には、知識集約型のサービス産業や高度技術集約型製造業などを積極的に誘致し、進出企業と大学、研究機関、それに政府機関などが有機的に連携・ネットワーク化することで、次世代の産業集積を構築していくものです。

**井水** これまでの誘致実績についてはどうですか。

**崔** 周知のように、08年秋のリーマンショックに端を発した世界経済危機で、国内外の企業投資マインドが冷え込む中、グローバル企業であるフランスのダッソー・システムのR&Dセンターを誘致する一方、国内においては自動車部品の一次ベンダーである現代モータース系列の現代IHLが進出するなど、これまでに70社余の誘致に成功しました。

日本の企業としては中村留精密工業が大邱テクノポリスに精密工作機械の生産工場を12年4月着工、ダイセルが永川先端部品素材産業地区に自動車部品生産工場を12年7月着工、12年9月には地元の自動車部品会社とJV形式で東京に本社を置く企業との投資協約の締結が予定されています。

そのほか、政府系の大邱慶北科学技術院をはじめ、韓国生産技術研究院大邱センター、国立大邱科学館など9つの研究教育機関の誘致にも成功するなど“産学官”の立地が進んでいます。また、開発・造成の初期段階であること、それに世界が景気低迷に直面していることを考慮すると、それなりに意味のある成果だと自負しています。

**井水** 世界的に、投資マインドが冷え込んでいる中での快挙ですね。次に、大邱慶北経済自由区域は10のクラスターで構成

されていると聞きました。その内容などについて、お話し下さい。

**崔** 2020年の完成を目指して造成中のこの区域は、お話しのように、10の事業区域、すなわち、大邱広域市内に5つ、慶尚北道内に同じく5つの事業地区で構成されます。

このうち、国際ファッションデザイン産業をメインにした地区の造成は完了しました。現在、分譲を行っているのは3区域。機械系メカトロニクスや自動車（部品を含む）、IT関連、グリーンエネルギーなどの業種を誘致する「大邱テクノポリス」や「新西先端医療地区」、それに自動車、航空機、造船などの先端部品素材産業や電装部品産業などの誘致をメインにした「永川先端部品素材産業地区」などです。

### “スマート”経済区域を目指す

**井水** 一般的に、立地や分譲に関する提出書類は複雑・煩雑で、関係部署が多岐にわたるなど、手間と時間を要するとの話をよく耳にします。外国と比べ、それに不安が加わります。これに関しては、どうですか。

**崔** 当自由区域庁では、こうした事情を十分配慮し、“ワンストップサービス”を徹底しています。そして、最少のコスト・時間で進出が可能になるよう区域庁あげて対処しています。したがって、そうした煩雑さや心配、不安は解消されるでしょう。

先程、申し上げたように、この区域は次世代型の産業集積を構築することを目的にしておりますので、造成、誘致に関しては、高度な産業インフラの構築はもとより、優れた住環境を提供するとともに、関係省庁、自治体など、まさに“産学官”が一体となって、ベストなビジネス環境を創出するよう努めています。そして“スマート”経済区域を形成します。

**井水** さて、日本では新産業創出の重要性が従来以上に高まっています。また、その担い手として、ベンチャー企業が注目されています。ベンチャー企業の活性化を含めて、投資への対応についてお話し下さい。

**崔** 周知のように、外国人投資には、進出企業が直接生産ラインなどを構築するグリーンフィールド型とジョイント型投資があります。このうち、グリーンフィールド型投資が全体の70%を占めます。この投資に関しては、これまでに多くの研究がなされています。これに伴い、投資説明会、主要媒体の広告など多様な手法が講じられています。

これからも、こうした広報・マーケティングに注力し、この



種の投資を増やしていく方針です。これに対し、ジョイント型投資に関する誘致マーケティングや戦略はまだ少数です。したがって、同型の投資・誘致の研究を重ね、今後、この種の投資も増やしていきたいと思っています。

大邱慶尚北道には将来性に富んだベンチャー企業が数多く立地しています。これらの企業がグローバル企業とコラボレーションして成長していけば、10年先に、地域経済を支える存在となっていく可能性があります。

**井水** 提携といえば、海外に進出する場合、投資リスクを考慮して、まず、現地企業と提携し、事情を把握してから本格的に進出するケースがみられます。韓国での投資に関してはどうですか。

**崔** その通りです。海外企業が韓国に進出する際、国内市場に精通した企業との提携を望む事例が多いですね。リスクの回避や迅速な事業の立ち上げ、将来への投資を有利にするなどの狙いからだと思います。当地域のベンチャー企業も海外企業との合併、提携を望むケースが増えています。

一般に、ベンチャー企業の場合、制約された経営資源などから情報収集に乏しく、法律の知識も潤沢ではありません。このため、海外企業とのコラボレーションに成功したケースはまだ少ないのが現在の実情です。

**井水** この面での対策についてはどうですか。

**崔** 当区域庁では、この対処策として、昨年12月から「ジョイントベンチャー相談デスク」を開設し、専門スタッフ2名を配置して、常時、運営する体制にしました。また、本年1月からは、ジョイントベンチャー需要調査も開始しました。

今後、この種の投資を増やしていくためです。とりわけ、日本からの投資の重要性と可能性を認識しています。このため、日本からの投資を専門に行うスタッフを1名増員するとともに、上半期に5回ほど誘致IRを展開しました。只今、申し上げたように、特に、日本企業の誘致には一層力を入れています。

**井水** 次に、ビジネスインフラについて、お話しを進めたいと思います。はじめに、交通インフラについてはどうですか。

**崔** 臨海の物流型経済自由区域と異なり、国内で唯一の内陸型経済自由区域なので、交通インフラは充実しています。大邱国際空港はじめ、高速鉄道（KTX）、それに7つの高速道路などが整備されています。

**井水** 人材の供給についてはどうですか。

**崔** 韓国の大学進学率は世界最高水準の約84%（2008年）で、専門性の高い技術系大学も多いので、即戦力となる人材が豊富です。ちなみに、大邱・慶尚北道には慶北大学など大学が51あり、毎年7万人の大学生が卒業（うち理工系1万7千人）しています。韓国の一般的な採用方法は、HPでの告知、学校推薦、新聞広告、それにヘッドハンティング会社の利用などさまざまです。

最近では、定期募集よりも随時募集が多くなり、即戦力を求める傾向が高まっています。それに伴い、職務経歴を重視する傾向にあり、専門性の高い職種はヘッドハンティング会社に依頼するケースが増えています。

### FTAを活用した輸出拠点として

**井水** 続いて、韓国への投資メリットについて、お話し下さい。

**崔** 今、韓国への投資が注目されている点を要約すると、コストダウンと輸出拠点としての魅力になりましょう。



大邱慶北経済自由区域 庁長 崔柄録氏

コストについては、生産用電力が日本の40%程度であり、法人税は24%で、日本の40%に比べ割安です。製造業のワーカーの賃金も日本の40%。通信費、産業用水道料金も割安で、先程述べたように、高学歴社会であり、若い、優秀な人材も豊富です。

**井水** 輸出拠点の戦略的メリットといえば、韓国はFTA（自由貿易協定）にも積極的ですね。

**崔** その通りです。周知のように、韓国政府は安定的な海外市場を確保し、開放を通して競争力を強化するため、FTAを積極的に推進しています。現在、FTAが発効しているのは米国やEU、アセアン諸国連合など46カ国、交渉中は12カ国におよびます。

こうしたFTA効果などによって、日本からの投資は年々増え、日本の直接投資は2008年の12億ドルに対し2010年には20億ドルに拡大しています。

**井水** 経済自由区域固有の優遇策もありますね。

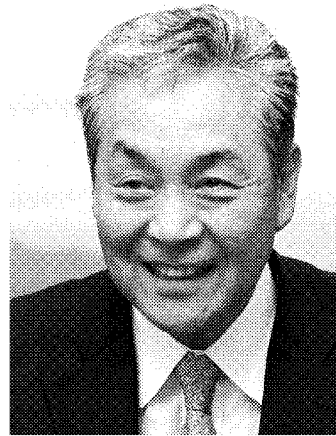
**崔** 経済自由区域に入居する外国人企業に対しては、税の減免、資金支援などの優遇策が用意されています。ちなみに、製造業、観光業の場合は1,000万ドル以上、物流業500万ドル以上の投資に対し、法人税・所得税を3～5年間100%、次の2年間は50%、それぞれ減免されます。

登録税は最長15年まで100%の免除を受けられます。また、高度な技術を要する事業や部品素材関連企業、5人以上の研究施設、50人以上新規雇用する企業に対しては、交渉結果によっては、現金支給も可能です。

**井水** ささまざまな支援策がありますね。また、先程のFTAも戦略的メリットが大きいと思います。

**崔** 韓国は日本と競合関係にするのではなく、あくまでも、相互に補完し合い、共に“ウィン・ウィン”の関係にしたいと思っています。こうした韓国の基本姿勢をご理解いただき、韓国への投資を期待しています。

**井水** 同感です。本日はありがとうございました。



日刊工業新聞社 社長 井水 治博

## 韓国投資の最適地！ 永川先端部品素材産業地区、慶山知識産業地区が 皆様をお待ちしております。



### 地区現況

永川先端部品素材産業地区

- ・位置：慶尚北道永川市琴湖邑亀岩里、采新洞、塊淵洞一円
- ・面積：1.69km<sup>2</sup>
- ・造成期間：2008年～2013年
- ・投資業種：先端部品素材産業（自動車部品、金属機械、メカトロニクス、ハイブリッドIT知能型電装部品、グリーン部品R&D）

慶山知識産業地区

- ・位置：慶尚北道慶山市河陽邑大学里一円（大邱広域市から30km）
- ・面積：3.914km<sup>2</sup>
- ・着工可能期間：2013年
- ・投資業種：建設機械及び機械部品特化産業、グリーン部品素材産業、先端医療機械及び先端メディカル新素材産業、R&D及び教育研究機関

### 投資メリット

国内最大部品・素材産業クラスター

- ・部品・素材産業クラスターとして熟練された技術と労働力確保容易及び無紛糾労使関係確立
- ・1時間距離内に国内最大の部品・素材企業の集積地
- ・部品・素材研究クラスターとして近隣優秀研究人材供給及び技術・装備活用容易

豊富な知識インフラ構築及び便利な交通網

- ・1時間距離内に51の大学位置（大邱・慶北圏）
- ・高速道路、高速鉄道が集中した内陸交通の中心、航空・港湾と隣接した輸出入物流の拠点

### 投資インセンティブ

税制支援

- ・製造業：FDI1千万ドル以上 ⇒ 所得・法人税：3年間100%、その後2年間50%減免
- ・物流流通業：FDI5百万ドル ⇒ 製造業3千万ドル以上投資時5年間100%、その後2年間50%減税適用
- ・資本財輸入関税：5年間100%減免
- ・取得・登録税：15年間100%減免
- ・財産税：10年間100%、その後5年間50%減免

資金支援（審議委員会の審議により決定）

- ・外国人投資に対する現金支援（外国人投資促進法14条）
- ・土地購入費、建築費、研究機材購入費
- ・基盤施設設置費、雇用補助金及び教育訓練補助金
- ・国・公有財産賃貸料減免（慶尚北道共有財産管理条例）